



第一礼拝次第

説教：渡真利彦文牧師 司会：安富英成執事

前奏			
頌栄	540	会衆	
主の祈り		〃	
プレイズ	「Smile」	〃	
	「たたえよ栄光の神」	〃	
聖書朗読	詩編 108 編 1-5 節	司会	
祈禱	(旧約聖書 p 949)		
特別賛美	いちやりばちよーで一		
賛美	聖歌 397	会衆	
説教	「揺るがない心で」	牧師	
祈禱			
賛献	270	会衆	
報告			
頌祝	新生 672b	会衆	
	禱	牧師	



第二礼拝次第 (19:00)

説教：渡真利彦文牧師

聖書：レビ記 19：32 (旧約聖書 p 193)

メッセージ：「老人を敬い」

プレイズ：「ホサナ」「愛する我が主」

讃美：新生 520 新生 519



ファミリー礼拝 (9:00)

説教：比嘉盛丈兄 司会：奏楽：中高生

聖書：士師記 7：1-8

メッセージ：「心がおごらないために」

<巻頭言>

「自分色に色づいて」

牧師 渡真利彦文

9月も半ばを迎えました。どのような秋を迎えましょうか。巷ではスポーツの秋、味覚の秋、読書の秋と耳にすることでしょう。この季節にふさわしい本を紹介しましょう。ブックレットのような気軽に読める本、「自分色に色づいて」(湊晶子、いのちのことば社)の中から紹介します。

日野原重明氏は、「私は晩秋の紅葉や黄葉が風に舞うのを見ますと、私たちも長い人生の中で、私たちのからだに蓄えた色素で私たちを染めて、そして潔く死んでいかななくてはならないと思います。老いに順応するというのは、老いの色素に誇りを持って自分を染め、静かに、しかし前向きに生きることです」と述べられました。(岩波ブックレット No.145「老いへの挑戦」岩波書店)。

人間だけが先には死がある、と予測して生きているそうです。私たちは死を背景にして、今日の生き方を考えているのでしょうか。死とか老いなんて、まだまだ先のこととっていないのでしょうか。

「若い」という意味は、10代、20代という意味ではありません。「明日に対して今日」は若い、という意味です。ですから、人生の終わりに近づいてから老いについて初めて考えるのではなく、若い日、すなわち今あるその時から、自分の中に老いの種を認識して、老いる心の意味にふれて生活したいと思います。そうして過ごした生涯の終わりには、蒔かれた老いの種は、その人その人の中で自らを自分色に染めているでしょう。